

国鉄 ED45形電気機関車 形式図

1955年三菱で試作された交流電気機関車
仙山線の試験区間でED44と共にテストが行われ、日本の交流電化の礎石となった
ED45には図のED451(のちED911)のほか、ED4511
(のちED9111)とED4521(のちED9121)があるが結局このED451が最も成績がよく
本格量産機ED70への道をきりひらいた

形態は従来の国産電機とはかなり違った大胆なデザイン、
ほぼ同年代のEH10と軌を一にしている
またこのロコはクイルドライブを初めて採用した国産電機
図に示した当初の塗色は紫がかった赤の車体にクリーム色の帯、
それに銀色の飾り帯が付いていた

